

「みんなの種～Seeds for All～」の活動を見学しました。

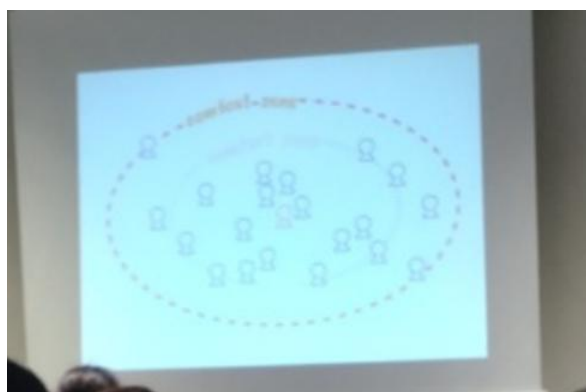
9月13日（日）山口県総合保健会館で開催された、「第2回みんなねフェス」に参加させていただきました。



「みんなの種～Seeds for All～」は、それぞれ生きづらさを抱えながらも自分らしく笑顔で活動をされている3名の高校生による団体で、今年で2年目となります。

今回は、福岡県立花高等学校の齋藤真人校長先生（校長ちゃん）をお迎えして、「そうである人も そうでない人も」というテーマで、たくさんの実話をベースに「得意なこと、苦手なことをひっくるめて君なんだ」というメッセージと、子どもたちが自分で決めて行動するための「肚落ちの大切さ」、「こうした方がいいよ」と手を引いてあげる介入型支援ではなく、そばにいて必要な時だけ手を差し伸べる、伴走型の支援の大切さなどのお話を聞かせ頂きました。

立花高等学校では、ゆっくり・のんびり・まったりとした、「安心して不登校のままでいられる学校」を目指しておられ、できないことを嘆くより、できていることを認めていくという考え方に、とても共感しました。様々な事例でご説明を頂いたのですが、各教室にある



2つの時計（アナログとデジタルどちらかが読めるように）の話で仰っていた、「同じ」を求める多数派に優しい社会に対するご意見、「骨が折れたらみんなすぐに病院に行くのに、心が折れた時は隠れて病院に行くのはなぜ？」というお話に、はっとしました。我々は、理不尽を前提としない、安心・安全で、心地よく過ごせるコンフォートゾーンを広げていかなければならないのだと深

く共感いたしました。

齋藤先生の講演の後は、みんなねの3名と、校長ちゃん、そして、立花高等学校からのスペシャルゲストの高校生を加えた5名でパネルディスカッションが行われました。司会の村上さんが、皆様から頂いたテーマを掲げられて、それに対してパネラーの皆さんが考えを述べるという形で進められました。

「自分が頑張っていることをわかってくれないとき、どうすればいいのか」、「不登校になりそうな子供に向けて、どう声を掛けるべきか」、「安心して学べる学校とはどんな学校」など、9つのテーマに対してディスカッションがありました。共通のメッセージとして、「否定をしない」、「待つてほしい」などがありましたが、立花高等学校の生徒が言われていた「苦手なものは苦手なままでいい」、みんなねメンバーが言われていた「まわりを信じる」という



言葉に、高校生にしてその考えや信念にたどりついていることへの驚きと、私自身、大いに学ばせていただきました。

パネルディスカッションの後は、席の近い8人くらいが集まって、グループワークを行いました。自己紹介のあとは、各テーブルに参加してくれたみんなねメンバーと質疑応答をする形で色々な学びを得ることができました。

最後に、高校ちゃんがどうしても伝えたかったお話をして下さりました。義務教育の話、名前さえ書けば受かる学校の話、涙のシュークリームの話など、沢山の实話ベースのお話をお聞かせいただきました。最後までお話を聞く

ことができなかったのですが、すべてのお話が心を揺るがすもので、とても良い時間を過ごさせていただいたと感謝しております。みんなねの皆さん、齋藤先生、ありがとうございました。第3回みんなねフェスを楽しみにしております。

(大塚)